

# アートと社会とミュージアム： クリエイティブな社会の構築に向けて

講演：南條 史生（森美術館 館長）

2015年6月18日（木）18:30-20:00

美術はいまや単なる個人の趣味ではなく、巨大な産業の一つになりつつある。それは、アジアで拡大した現代美術の市場、日々報道されるオークションのニュースなどからも分かる通り、経済活動の一部でもあり、社会的な事件でもある。一方で、地方新興の意図を持って実施される大型の国際美術展、地域住民のためのワークショップや地域産業との共同作業、観光産業とのタイアップなどは増大し、アートの負う社会的な役割はますます拡大している。六本木にある森美術館は、国立新美術館、サントリー美術館と六本木アートトライアングルを形成し、六本木アートナイトの牽引役を果たしている。この講座では新しい時代のアートと美術館に対する期待と役割について、事例を挙げて検証し、解説する。

## < プロフィール >

1949年東京生まれ。1972年慶應義塾大学経済学部、1977年文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。1978-86年国際交流基金、1986-90年ICAナゴヤディレクター、1990年-2002年ナンジョウアンドアソシエイツ主宰、2002-06年森美術館副館長を経て2006年11月より森美術館館長。

国際的な展覧会、審査員の経験として、第47回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー（1997年）、台北ビエンナーレコミッショナー（1998年）、ターナー賞審査委員（1998年）、横浜トリエンナーレ2001（第1回）アーティストック・ディレクター（2001年）、第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ金獅子賞審査委員（2005年）、第1回、第2回シンガポール・ビエンナーレアーティストック・ディレクター（2006年、2008年）等を歴任。

行政に関わる近年の役割として、2011-12年経済産業省クリエイティブシティ研究会、2012年外務省広報文化外交のあり方に関する有識者懇談会、2014年文化庁現代美術の海外発信に関する検討会議、2015年4月より文化庁文化審議会文化政策部会など多数。

著書に「美術から都市へ～インディペンデントキュレーター15年の軌跡～」（鹿島出版会、1997年）、「疾走するアジア～現代美術の今を見る～」（美術年鑑社、2010年）、「アートを生きる」（角川書店、2012年）がある。



会場：政策研究大学院大学 講義室G

主催：政策研究大学院大学 文化政策プログラム

言語：日本語

定員：40名(要事前申込み、先着順、無料)

参加をご希望の方は、①氏名、②所属、③メールアドレスを明記の上、  
6月11日(木)までに [gripsculture-ml@grips.ac.jp](mailto:gripsculture-ml@grips.ac.jp) までお申込み下さい。

お問合せ先： 政策研究大学院大学 文化政策プログラム  
東京都港区六本木7-22-1

TEL: 03-6439-6162 / 6164 【担当：垣内 恵美子 / 志村 聖子】

E-mail: [gripsculture-ml@grips.ac.jp](mailto:gripsculture-ml@grips.ac.jp)

<http://www3.grips.ac.jp/~culturalpolicy/>